

町政を問う

一般質問とは

議員が町政全般にわたり、執行機関（町長・教育長など）に疑問点について、所見を伺うことです。



高森 功治 議員

奨学金返還支援制度について 5

駅前の商業施設誘致について 6



辻 紀樹 議員

ヒグマ対策について 8

議会の会議録はホームページでご覧になれます

長万部町ホームページトップ → 町議会 → 会議録 からお入りください。

長万部町役場ホームページ

<http://www.town.oshamambe.lg.jp>

— 高森 功治 議員 —

奨学金返還支援制度について

(町長) 若者の地方定住の促進に有効と考える

高森 国は、大学生や若い世代の地方定住促進のため、自治体が奨学金の返還を支援する取り組みを推進している。

日本学生支援機構の調査によると、大学生の約3割が返還が必要な貸与型奨学金を利用しているとのこと、就職後、奨学金の返還に苦しむ若者が少なくない。

この返還支援制度で若者の経済的な負担を軽減し、地元企業への就職、介護士や保育士などの特定職種の人材確保、新たな移住者の増加などの効果も期待できることから、本町での事業実施について町長の所見を伺う。

町長 奨学金の返還支

援は、若者の負担軽減や地方定住の促進に有効と考える。町でも、介護士や保育士など必要な職種に加え、技術系資格者の人材確保も検討すること、人材確保と定住促進を図れる可能性がある。

ただし、必要な職種の人材の絞り込みや、新幹線工事などの鉄道事業の技術者への適用の可否など、移住定住の効果と公平性の観点が重要と考える。若者の定住は町の未来に重要であることから、先進自治体の事業を参考に、町での人材確保の必要性和移住定住の効果などを踏まえて、長万部町奨学金運営委員会の意見を伺いながら、検討して

まいりたい。

高森 奨学金返還支援制度の、事業の建て付けと、道内での市町村でどれくらい実施しているのか伺う。

新幹線推進課長 道内52の自治体で奨学金支援制度の取り組みが実施されている。自治体が行う奨学金支援には、大きく分けて2つのパターンがある。1つ目は返還免除型で、これは自治体独自の奨学金について要件を満たした場合、貸与された奨学金の全部または一部が免除されるもの。2つ目は、返還支援型であり、要件を満たした場合は様々な奨学金を幅広く返還を行う際に補助金な

どで返還にかかる費用を支援するものである。

渡島管内では5つの自治体で、3年から5年の期間、月1万円から6万円程度の援助が実施されている。幅広く支援するタイプでは函館市、北斗市、七飯町。また、返還免除型では松前町、木古

内町で行われている。

高森 返還支援型で何うが、この制度を実施した場合、国からの交付税措置はあるのか。

新幹線推進課長 奨学金の返還支援に地方公共団体が要した費用は、特別交付税での対象措置となるものがある。支援の

自治体が行う奨学金返還支援には、大きく分けて2つのパターンがあります

1. 返還免除型



自治体独自の奨学金の貸与を受ける



要件を満たした場合、貸与された奨学金の全部又は一部が返還免除される



2. 返還支援型



奨学金の貸与を受ける



要件を満たした場合、奨学金の返還を行う際に、補助金などで返還に係る費用を支援



奨学金の返還支援を受けるためには、各市町村で定める要件を満たす必要があります。以下に支援内容・要件をまとめておりますのでご覧下さい。また、各市町村の制度においてご不明な点等がある場合は該当市町村に直接お問い合わせ下さい。

奨学金返還支援を紹介する北海道のホームページより

内容や金額は条件によって様々だが、特別交付税措置の支援対象となる。

高森 いろいろな条件によって変わるといふことだが、大体2分の1くらいは町に入ってくるかと考えてよいか。

新幹線推進課長 例示 としては返還の3分の1、2分の1、3分の2等なので2分の1かどうかというのはこの段階では判断しづらいところである。

高森 自分がこの制度を知ったきっかけが、実際に長万部の事業者から聞いた話で、長万部出身の若者が近隣の町村でこの制度をすでに実施している所に就職してしまつた話を聞いた。ぜひ長万部もこの制度を調査・研究して実施していただきたい。

町長 お話はよくわかる。今後検討していききたい。

— 高森 功治 議員 —

駅前商業施設誘致について

(町長) すでに民間事業者から大きな関心が寄せられている

高森 昨年12月の町民説明会で、駅東口の駅前広場や自由通路、昇降棟とともに立体駐車場と商業の複合施設の構造図が示され、令和7年度中に基本構想を検討したいとの説明があった。

駅前は町の中心地としてのにぎわい作りが不可欠であるが、現在営業中のスーパーは老朽化しており、災害などで撤退すると大変住みにくい町になるのが心配だ。

行政として、複合施設の構想についてできる限りの検討をするべきと考えるが、町長の所見を伺う。

町長 駅前整備の未来像として、商業機能の集約とにぎわいづくりが重要だ。議員の懸念どおり、スーパーの老朽化や撤退リスクは課題であり、土地画整理事業で大規模な区画造成が見込めるのが商業施設の誘致の好機

であると考えている。

土地画整理事業では大規模区画の確保ができることが前提ではあるが、令和7年度中に複合施設の基本構想について、民間企業誘致に向けた検討をこの機会を逃すことなく進めたいと考えている。すでに民間事業者から大きな関心が寄せられており、前向きに対応したいと考えている。

高森 複合施設に防災機能を持たせるという計画になっているが、町の中に賑わいを持たせつつ、防災機能を持たせるという計画は実際にできるのか。

町長 長万部の津波対策上、新しい施設の建設を考えたときには常に防災意識を持って津波対策を考えなければならぬ。また新しくできる自由通路は、最大の避難場所になると考える。商業施設もそういう形の中で町の

人が逃げ込んでも大丈夫な、人命を守るような施設にしないといけない。

高森 自由通路の話が出たが、新幹線の開通が遅れても、自由通路は早期に完成しなければならぬと考えるが、その辺の具体策や鉄道運輸機構への働きかけはしているのか。

町長 鉄道運輸機構には最初から2028年に自由通路が通行できるようにお願いしている。機構からは、たとえ2028年の駅舎の完成が遅れても自由通路は仮設で工事していきたいという話も今の段階でいただいている。

高森 答弁書の最後には、民間業者から大きな関心が寄せられており、前向きに対応したいと書いているが、現段階ではどのような状況にあるのか。

町長 すでに何回か民

間企業のトップとお会いして相手方も将来長万部の商業施設の中で商売をしていきたいという話をいただいている。

ただ、駅舎の完成がどうなるのか、これが大きな課題である。これから長万部の駅は今、在来が使っている駅舎が解体されて、仮の駅舎になって、本駅舎ができて初めて使える。新幹線の開通が遅れても長万部の駅舎というのは在来線が使うので、いつ駅舎が完成するのか、いつ滞留空間が使えるのか、いつ自由通路が使えるのか、このあたりを明確に出してほしい。



北海道新幹線延伸工事の様子

という話を鉄道運輸機構としており、近々に明示していきたいということになっている。

それに期待をしながら商業施設のほうにも誘致の話を進めていく。

まだ交渉段階だが誘致に向け今努力をしているので、ご理解いただきたい。

● 議員の出席簿 ●

令和7年1月～令和7年3月

会議名	開催日	1 辻 (義)	2 橋 本	3 辻 (紀)	4 大 谷	5 北 川	6 高 森	7 長 崎	8 高 橋	9 村 川	10 柏 倉
第1回臨時会	1月21日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第2回臨時会	2月17日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
第1回定例会	3月6日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月11日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月14日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全員協議会	1月17日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2月13日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2月26日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月3日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月11日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
総務常任委員会	2月13日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月3日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月6日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
産業建設常任委員会	2月26日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月6日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議会運営委員会	1月17日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2月13日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月3日	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月6日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3月11日	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議会広報編集 特別委員会	1月17日	—	○	○	—	—	○	—	—	○	○
	3月11日	—	○	○	—	—	○	—	—	○	○

○（出席） ×（欠席） —（出席対象外）

― 辻 紀樹 議員 ―

ヒグマ対策について

(町長) 関係機関と協議しながら対処する

辻 北海道のヒグマの

推定生息数は、平成2年から令和4年までの32年間で2.3倍の1万2000頭となり、生息域も拡大を続け、人里への出没回数も大幅に増え、今後さらに増加すると考えられている。

本町でも、昨年苗畑地区でヒグマが確認され、今後人里への出没について適正な対応が必要ではないか。

このことを踏まえ、以下について質問する。

1、北海道猟友会八雲支部長万部分会と、ヒグマ出没対策について協議されているか。

2、過去5年間の捕獲

数は何頭か。

3、過去の出没地域はデータ化されているか。また、出没地域は何箇所あるか。

4、長万部町・八雲警察署・猟友会長万部分会の三者による協議会はあ

るのか。

5、緊急事態において、他管内猟友会の即時支援は可能か。

町長 1点目の質問は、

当町には「長万部町鳥獣被害防止対策協議会」があり、猟友会、NPO法人長万部町緑と樹を愛する会、新函館農協長万部支店、町の4団体で構成しており、この協議会を通じてヒグマ出没時の対

応を協議している。

2点目の質問は、令和2年から令和6年までの捕獲実績は0頭である。

3点目の質問は、目撃情報が寄せられるたびに北海道ひぐまつぷに登録している。今後は、他の市・町と足並みを揃えるため、町のホームページでも目撃情報が確認できるように対応する予定である。

また、出没地区はとの質問だが、過去5年間で目撃情報は63件で、町内の豊野・中ノ沢・長万部の旭浜を除く全ての地域で目撃されており、特に、豊津・栗岡・知来・富野においては、毎年目撃情

報が寄せられている。

4点目の質問は、三者による協議会は現時点ではない。

5点目の質問は、町内・町外を問わずハンターが捕獲を行う場合、鳥獣保護管理法に基づき、捕獲を行うエリアの「捕獲許可証」が必要となる。

そのため、他管内猟友会の支援そのものを受けることは可能であるが、許可証の交付までに一定時間を要することから、緊急事態の対応は難しいと言える。したがって、緊急時であればこそ地元猟友会の理解と協力が不可欠と考えている。

辻 ヒグマ出没時の対応を協議とあるが、どのような内容か。

産業振興課長 目撃情報が入った時点で、速やかに町と警察、猟友会による情報共有をしている。目撃付近の巡回、注意喚起として近隣住民宅の訪

問、注意喚起用看板の設置、必要性に応じて、猟友会と箱檻の設置の協議を行っている。

辻 箱檻という話が出たので、箱檻の個数は何基あるのか。また、何箇所くらいに設置しているのか。

産業振興課長 箱檻は、猟友会で7基所持している。昨年、4基設置しており、富野に1基と知来に3基設置した。

辻 3基余っているが、それはそのときによって出沒した地域に設置を速やかにしているという理解でよろしいか。

産業振興課長 そのとおりである。

辻 答弁書では出沒地域が地区名で示されているが、内部資料として長万部全町地区に出沒地点を赤点で示すとか、そういう誰が見てもわかる、担当者がいないときでも速やかに対応できるよう

な方法は取ってはいないのか。

産業振興課長 クマ出

没時や箱檻の設置など、突発的な対応については、少ない人数なので、係だけでなく産業振興課全体で対応をしている。担当者不在でも対応ができるように書類等の整備をしておきたいと考えている。

辻 ヘリポートの近くでクマが確認されたということ、今後、字長万

部地区にヒグマの出没の可能性が高くなっている。庁舎内の中で主担は産業振興課だと聞いているが、総務課を主体とした組織が必要になるのではないかと考える。その理由としては、やはり住居地域になるので周知の方法を素早くしなければならぬ。現場対応とその住民周知方法については、総務課を主体として回って歩くとか、防災ラジオでもやるとは思うが、地域

住民、地域に早く知らせる方法が必要と考えるが、どうか。

産業振興課長 昨年も

苗畑地区にヒグマが出没したときには、防災ラジオを通じて広報をしている。また、産業振興課だけでは市街地に出たときには対応は難しいと思うので、総務課や建設課、消防なども協力しながら体制を作っていきたいと思っている。

辻 現在猟友会の会員

が10名ということだが、ライフル銃免許を所持しているのは何名か。

産業振興課長 4名の方が所持している。

辻 6名の方が散弾銃

ということになる。散弾銃からライフル銃の免許を申請できるのは、どの程度年数がかかるのか。

産業振興課長 散弾銃

を継続して10年以上所有している方ができるようになっている。

辻 「緊急時であれば

こそ、地元猟友会の理解と協力が必要」だと、全くそのとおりだと思う。

ただ、字長万部地区ということになる、法律上ライフル銃と散弾銃は使えない。そうするとどうしても箱檻というものが必要になってくる。その箱檻を設置する際の要領とか、クマの習性とかを熟知した人でないと、なかなか箱檻での捕獲は難しいという話がある。箱檻を設置して、海側にはクマを移動させないという方法が今後の長万部にとっては一番大事だと思っている。これからやはり頭数が多くなってくるから、町中に降りるということが考えられると思う。ライフル銃ではなく、やはり箱檻でどうやって町中に降りてきたものを捕獲するかというのは長万部町だけではなかなか対応できないもの

があると思う。

今後、やはりそういうことも考えながら、確かに法律があるので、そう簡単にはいかないとは思いますが、やはり対応を考えながら、補償費もかかるわけなので、検討する時期に来ているのではないかと思うが。

町長 箱檻が緩衝帯の

ひとつの武器になるのであれば、これからの大きな活用の

方法だと思う。クマも足が早いので、あそこに出たところを見てみたらいいというのが往々に考えられるので、渡島総合振興局の箱檻の設置



ヒグマ捕獲用の箱檻

許可が出れば、設置をしたい。設置となればベテランの人方の知恵がいるということも先ほどの質問にあったとおりで、今後、猟友会の人方の知恵を借りながら、箱檻をどこに設置しておけば緩衝になるのかということも含めて、検討していく必要があると思っている。